



イスラム地区東 ステパノ門

ゲッセマネをくぐり、エルサレムの旧市街のイスラム教徒地区へ、東側のステパノ門から入りました。オスマン帝国専制君主の象徴としてつけられたライオンの浮彫が左右にあり、ライオン門とも言われます。このステパノ門の外で起こった残酷な事件が聖書に記されています。初代エルサレム教会では執事として7名を選びましたが、そのひとり、**恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業としるしを民衆の間で行っていた(使 6:8)**と評されていたステファノは、**妬みを買ったのでしょうか、キレネとアレクサンドリアの出身者で、いわゆる「解放された奴隷の会堂」に属する人々、またキリキヤ州とアジア州出身の人々などのある者たちが立ち上**

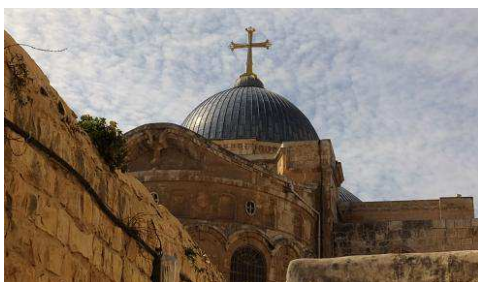
がり、ステファノと議論しましたが勝ち目がなく、彼らは、民衆、長老たち、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。(使徒6:12)と記されています。ステファノは、

神のために家を建てたのはソロモンでした。けれども、いと高き方は人の手で造ったようなものにはお住みになりません。これは、預言者も言っているとおりです。(使徒7:47-48)

と述べ、預言者が告げた「正しい方」を殺したと、神殿絶対主義者を糾弾したのです。彼は冒涇罪で訴えられ、都のそとに引きずり出され、石を投げつけられて殺されました。この事件にパウロも最終的に関わりました。ステファノの最期の言葉「**主よ、この罪を彼らに負わせないでください**」(使徒7:60)は、パウロはもちろん、私たちすべてをとりなしてくる祈りとして心に刻まれています。

門を入れてすぐ、12世紀に十字軍の時代に建てられ、修復されながら保存されている聖アンナ(マリアの母)教会があります。美しいロマネスクの会堂です。ここはマリアが誕生した家という伝説があります。この敷地内にベテスタの池が遥か下に見えました。

そのそばの学校の敷地がローマ軍の要塞があった場所です。此处で、鞭打たれ、死刑の判決を受け、イエス様が十字架を背負ってゴルゴタまで歩かれたという、「ビア・ドロローサ」が始まります。16世紀にフランシスコ会が作った道です。現在の考古学ではピラトの官邸は別の場所にあったのではと推測されています。いずれにせよ、イエス様の足跡を辿ろうとする人々の思いがあるのでしょう。私たちは一つ一つ説明を受けながら、石畳の狭い道、階段、商店街の中に印された跡をたどりました。ゴルゴタの場所とされる聖墳墓教会まで進みました。ここで、衣を脱がされ、十字架にくぎ付けにされ、息を引き取り、十字架から降ろされ、墓に葬られたというゴルゴタでの全ての悲しみを記念しています。多くの人々が悲しみの思いを顔に浮かべて、一つ一つの記念の場所に進みより、触ったり、眺めたりしています。この雑踏の中でも一心に祈る人々がいます。**現在この教会はカトリック教会、東方正教会、アルメニア使徒教会、コプト正教会、シリア正教会の複数教派による共同管理となっており、一日中それぞれ何らかの教派によるミサ・聖体礼儀などの公祈祷が行われている**とのことで会堂の内部も様々に別れ、祭壇、祭具、装飾など多種多様です。墓の北側に復活を祝う礼拝堂もあります。



聖墳墓教会

ビア・ドロローサは殆どがイスラム教徒地区にあり、狭い路地が商店街となっています。そこで働いている中年の女性たちはアラブ的な服装をしています。これだけ多くの外国人がやってくる場所なのに、外国のファッションなど関心が全くないようですし、他人の目を意識することなく、でーんと立っていて、強さを感じました。やがてユダヤ人地区に入ると家は建て替えられていて、道は整備され、清潔でした。やはり格差があることを痛感します。